

1 学校適正配置の必要性

各学校では、それぞれの学校規模によるメリットを生かしつつ、デメリットを補うよう、最大限の努力をしていますが、多様な教育活動を展開し、子どもたちが豊かな人間関係を築き、社会性を身につけていくようにするためには、小さなグループから大きなグループまで、場面に応じて適切な規模の集団を組むことが必要です。そこで、次の点について考慮しつつ、より良い教育環境を整備するために、学校規模の適正化を図る必要があります。

- 人間関係面
 - (ア) 子どもたち同士が豊かな人間関係を築くことができること。
 - (イ) 子どもたちが集団の中での適切な行動を身につけ、社会性を養うことができること。
 - (ウ) クラスの人数が増えることにより、人間関係の固定化を防ぐことができること。

- 教育指導面
 - (ア) 大きな集団での学習活動や小グループでの学習活動など、様々な学習形態に対応でき、個に応じたきめ細かな指導と集団の相互作用を生かした指導の両方が可能であること。
 - (イ) 施設、特別教室、教材・教具等の使用に支障をきたさないこと。
 - (ウ) 球技大会や陸上競技大会において、学校単独でチームが編成でき、行事に対する成就感を味わえること。

- 学校運営面
 - (ア) 複式学級を解消することができ、学級担任に常勤職員を配属できること。
 - (イ) 教員同士が互いに切磋琢磨でき、校務分掌の運営に大きな負担を生じないこと。

小規模校で見られる特徴

小規模校では次のような特徴があると考えられます。

多くなる発表の機会や活躍の場

- ▶ 運動会や陸上大会などの行事や、児童会・生徒会、委員会活動などで発言や活動する機会が多くなり、活躍の場が増えます。
- ▶ 学習活動でも学校の代表として発表の場が多くなります。

地域ぐるみでの教育活動の充実

- ▶ 学校行事などは、地域行事と合同で行うことが多くなり、地域全体で児童生徒の学びを支える機会が多くなります。

小規模校のよいところ

先生に相談しやすい環境

- ▶ 児童生徒が担任だけでなく、他の先生から声をかけられる機会が多くなります。教職員との距離が近くなることで、学校生活で困ったことなどを相談しやすくなります。

設備や教材の十分な活用

- ▶ 理科の実験器具や、音楽の楽器など、教材・教員を児童生徒一人ひとりが十分に使用することができます。
- ▶ 体育館やプール、校庭などを広く使うことができ、安全性が高まります。
- ▶ 余裕教室を活用し、様々な学習活動を展開することができます。

その一方で...

学校行事

- ▶ 学校行事の規模が小さくなり、内容に制約が出てくることもあるため、児童生徒の活動内容や実施方法を工夫する必要があります。
- ▶ 個々の児童生徒の活動機会が多いことから、充実した活動となる反面、準備や後片付け等の負担が大きくなります。

多様な考え方を身に付ける機会

- ▶ 学級の人数が少ないことで、多様な意見を聞いて自分の考えを深める学習や、挑戦し合う活動が少なくなる傾向があります。

小規模校の悩み

人間関係づくり

- ▶ 学級の人数が少ない、クラス替えが無い環境では、人間関係や役割分担が固定化される傾向があります。
- ▶ 友人関係でのトラブルを起ささないように気を遣うため、児童生徒にとっては、自分の意見が言いづらいことがあります。

部活動やクラブ活動

- ▶ チーム編成に必要な人数を満たすことが難しく、単独での大会参加ができないことがあります。
- ▶ 他の小・中学校との合同チームで活動する場合、練習時間や活動場所の調整等の課題があります。

◆◆◆ 少人数指導は小規模校だけの特徴？

小規模校は学級数が少ないことから、学級数に応じて教職員の配置も少なくなります。少人数指導は、きめ細かな指導をするために、学級を2つや3つに分けて、集団人数を少なくして指導する学習形態で、大規模校でも行われています。

2 学校規模の考え方

学校教育法施行規則及び平成 28 年度千葉市・大学等共同研究事業「千葉市における小・中学校の適正規模・適正配置のあり方について」を踏まえ、次の観点から本市における適正規模の基準を定めます。

小学校：各学年 2 学級以上、全体で 12 学級以上 24 学級以下

中学校：各学年 4 学級以上、全体で 12 学級以上 24 学級以下

* 中学校の各学年 3 学級以上、全体で 9 学級以上 11 学級以下は準適正規模

①小学校 [平成 36 (2024) 年度推計]

小規模校 (11 学級以下)：40 校 大規模校 (25 学級以上)：7 校

* 分校、特別支援学級を含まない

学級数	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	校数	計・割合
4				千城 更科 大宮台			3	40 36.7%
6	大巖寺	横戸 花見川第三 さつきが丘西 柏井 瑞穂 花島	弥生	坂月 白井 大宮 若松台 源	大木戸 越智 大椎	高洲第四 真砂第五	18	
7		畑 花見川	あやめ台			高浜第一	4	
8		西小中台				高浜海浜	2	
9	仁戸名		柏台 千草台東	千城台東	椎名		5	
10	弁天	長作				稲浜	3	
11	松ヶ丘 川戸	こてはし台 さつきが丘東		統合校 (千城台南・旭)			5	
25					誉田東	打瀬	2	7 6.4%
26		検見川					1	
27	新宿 宮崎						2	
30			小中台	北貝塚			1	
33							1	
計	7	13	5	11	5	6	47	47校 全校数(109校)に対する割合 43.1%

②中学校 [平成 36 (2024) 年度推計]

小規模校 (11 学級以下)：26 校 [準適正規模校：10 校を含む。大規模校は無し。]

中学校 学校規模別 [平成36年度]

* 稲毛高附属中及び特別支援学級を含まない

学級数	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	校数	計・割合
3				白井 更科		高洲第二	3	16校 29.6%
4				大宮	越智		2	
5						幸町第一	1	
6	川戸 星久喜	犢橋 こてはし台			土気	高浜	6	
7		さつきが丘	千草台				2	
8				千城台西 千城台南			2	
9	末広	朝日ヶ丘 花見川				高洲第一 幸町第二	5	10校 18.5%
10	椿森	天戸	都賀				3	
11	松ヶ丘				土気南		2	
計	5	6	2	5	3	5	26	26校 全校数(54校)に対する割合 48.1%

3 大宮地区小中学校の今後の児童生徒数推計について

※2018年度は実数、2019年度以降は推計値（2018年度実施推計）

※特別支援学級の児童学級数を除く

大宮小学校

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
児童数	173⑥	161⑥	148⑥	136⑥	122⑥	113⑥	106⑥
6年生	35①	34①	32①	28①	21①	23①	23①
5年生	34①	32①	28①	21①	23①	23①	21①
4年生	32①	28①	21①	23①	23①	21①	20①
3年生	28①	21①	23①	23①	21①	20①	14①
2年生	21①	23①	23①	21①	20①	14①	12①
1年生	23①	23①	21①	20①	14①	12①	16①

2022年度より20名に満たない学級が発生する見通し
特別支援学級2名
(2018年度)

大宮台小学校

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
児童数	75⑥	57⑤	50⑤	51④	47④	48⑤	42④
6年生	25①	12①	10①	13①	5 } ①	10①	7①
5年生	12①	10①	13①	5 } ①	10 } ①	7①	5 } ①
4年生	10①	13①	5 } ①	10 } ①	7①	5 } ①	11 } ①
3年生	13①	5 } ①	10 } ①	7 } ①	5 } ①	11 } ①	9 } ①
2年生	5①	10 } ①	7①	5 } ①	11 } ①	9①	6 } ①
1年生	10①	7①	5①	11①	9①	6①	4①

2019年度より複式学級の発生する見通し
特別支援学級1名
(2018年度)

大宮中学校

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
生徒数	127⑥	151⑥	146⑥	154⑥	139⑥	123⑤	112④
3年生	37②	50②	40②	61②	45②	48②	46②
2年生	50②	40②	61②	45②	48②	46②	29①
1年生	40②	61②	45②	48②	46②	29①	37①

2025年度よりすべての学年が単学級となる見通し。
特別支援学級1名
(2018年度)